

「一所懸命」勉強に励もう  
—— 勉強には「自覚」が必要 ——

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：開倫塾では、「一生懸命」だけでなく「一所懸命」という言い方も塾生に伝えているようですね。

A：(林 明夫。以下略)はい。ものごとを熱心にやるという意味での「一生懸命」は、もともとは「一所懸命」からきたようです。「広辞苑」には、「一所懸命」は「賜った一か所の領地を生命にかけて生活の頼みとすること」「物事を命がけですること。一生懸命。必死。」の意味であると説明されています。

私は、「一つの所で命を懸ける」くらい熱心にものごとに取り組むという意味での「一所懸命」という言い方は尊い考え方であると信じ、塾生の皆様に紹介させて頂いております。

Q：開塾以来、毎年新年になると「一所懸命」手ぬぐいを塾生に配り続けているのは、そのような意味だったのですか。

A：はい。塾生の皆様、保護者の皆様、地域社会の皆様に、ものごとに取り組む際の大切な態度として「一所懸命」ということを知って頂きたいと願い、「一所懸命」手ぬぐいを配らせて頂いております。

Q：「一所懸命」にやればものごとは成し遂げられる、例えば成績も上がり、勉強もできるようになるとお考えですか。

A：「一所懸命」やることはもちろん大切ですが、これに加えて、何のためにものごとに取り組むのか、例えば勉強であれば何のために勉強するのか、仕事であれば何のためにこの仕事をするのかという本人の「自覚」も極めて大切であると考えます。

「自覚」が大きければ大きいほど、深ければ深いほど、「一所懸命」にターボエンジンが付いたと同様よになりますので、「成果」も出るようになります。

Q：「自覚」とは、何ですか。

A：何のために今取り組んでいることをするのか、その意味を知ることであると思います。例えば、何のために今勉強しているのか、何のために働くのかなど、今していることやこれからすることの意味を自分でよく考えて明確にし、自分に言い聞かせ続けること、これが「自覚」であると私は考えます。

Q：「自覚」をもってものごとをする、例えば勉強したり仕事をするには、どうしたらよいのですか。

A：毎日のように、1時間くらい時間をかけてじっくりと新聞を読み続けることをお勧めします。1日1時間くらいの時間をかけ腰を落ち着けてじっくり新聞を読み続けると、世の中はどのように動いているのか、今世の中では何が問題になっているのか、これから人類はどのようなことに取り組まなければならないのかが、少しずつわかってきます。

勉強や仕事をするときでも、世の中のことをよく知った上で「自覚」をもって行えば、行っていることの意味が自分なりにわかりますのでそこに自分というものが入ります。勉強や仕事は辛いかもしれませんが、それが自分以外の、つまり他人や世の中のためになり、また自分を生かすことにもなります。

Q：お話が少し難しく、よくわからないのですが……。

A：勉強でよい結果を出す、つまり勉強ができるようになるためには、ただがむしゃらに命懸けでやることも大事ですが、新聞をじっくり読み込むことにより「視野」つまり「ものごとの見方」を広げた上で、何のために勉強するのかという「自覚」をもつことも大事だということです。

Q：「自覚」をもつには、新聞を読むだけでよいのですか。

A：新聞を読む他に、志の高い人の話をじっくり聞いたり、定評のある本を読んだり、小さな旅行をしたりすることも大切です。博物館や美術館、寺院を見学したり、質の高い演劇やよい音楽・映画を鑑賞したり、ボランティア活動やインターンシップの職場体験などに積極的に参加したりすることも大いに役立ちます。

自分自身で社会性や感性を磨き込む努力をすることが、「自覚」を高めるといえます。思ったこと考えたことを文章に表すことも素晴らしいと思います。

保護者の皆様には、勉強しなさいと言う前にお子様の「自覚」をどう促したらよいのかをお考え下さいますようお願い申し上げます。

以上